

## 令和3年度使用 中学校音楽科（音楽）調査資料

発行者	調査内容
教育出版	<p><b>&lt;知識及び技能を習得するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びのユニット」として、ねらい、教材、共通事項、さらに学びを深めるための曲や活動が、円の形でデザインされており、歌唱・創作・鑑賞の内容が一目でわかる配列となっている。</li> <li>○教材に応じて、共通事項のイの用語や記号を右ページに示し、「楽典」のページで調べられるようになっている。</li> <li>○「指揮をしてみよう」では、表現の基礎的な技能の習得や創意工夫して表現するための解説が示され、発達段階に応じて習得できるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力・判断力・表現力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「何が同じで、何が違う？」では、音楽の共通性と固有性について発展的に考察することができ、音楽的な見方・考え方を活用して自分の考えを導くことが期待できる。</li> <li>○歌唱における「話し合おう」のページでは、構造を理解したり、表現を工夫したりするワークシートがあり、協働的な活動が展開されるよう工夫されている。</li> <li>○教師役と生徒役のイラストによる質問や助言の吹き出しが、主体的な学びや思考・判断を促している。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力・人間性等の涵養を高めるための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○主要教材に加え、「比べてみよう」「深めてみよう」と学びが深まるように教材が設定されている。</li> <li>○「まなびリンク」では、目次のQRコードから教材にリンクした動画、音声、ワークシートなど学習に役立つ情報につながり、幅広い鑑賞曲が視聴でき、情報量が豊富である。</li> </ul> <p>△創作では、活動1から6の順番で流れが示されているが、生徒のイメージや想像力を膨らます場面絵や楽器等の絵が少なめである。</p>
教育芸術社	<p><b>&lt;知識及び技能を習得するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○長唄の表現活動では、楽譜が図式化され、視覚的に音程や抑揚の雰囲気伝わりやすく、工夫されている。</li> <li>○創作活動では、広い音域の可視化や図形の使用により、表現したいイメージをさらに深めることができるよう工夫されている。</li> <li>○ページ下部の二次元コードを読み取ることによって、WEBサイト上で参考資料を閲覧することができるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「深めよう！音楽」では、考えるテーマがはっきりと示され、聴き取ったこと（知覚）感じ取ったこと（感受）をまとめるワークシートが効果的である。</li> <li>○「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて、教材ごとに意見交換する様子が、教師役、生徒役による吹き出しで示されており、進んで学び合い、かつ思考・判断を促すよう工夫されている。</li> <li>○教材に応じて、共通事項や用語、音楽記号などを左右のページに分けて掲載され、「音楽の約束」で調べられるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性の涵養を高めるための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容の表示では、資質・能力の3つの柱がはっきりと示され、それに対応する学習内容や教材がわかりやすく見やすい。</li> <li>○歌唱の「深めよう！音楽」では、主体的・対話的で深い学びの実現を促し、鑑賞の「深めよう！音楽」では、知覚・感受を促し、3つの資質・能力の育成が図られている。</li> <li>○各教材の学習のねらいと、ねらいに迫る学習活動文が具体的に示されています。生徒が何を学ぶのかがわかるよう工夫されている。</li> </ul>

## 令和3年度使用 中学校音楽科（器楽）調査資料

発行者	調査内容
教育出版	<p><b>&lt;知識及び技能を習得するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各楽器の構造や各部の名称を、写真や図を用いてわかりやすく学習できるようになっている。</li> <li>○リコーダーでは、学びのねらいをスタート、まとめの曲をゴールと設定し、見開きごとに学習を見通せる構成になっている。</li> <li>○音の「スケッチ」では、荒城の月の簡易的な前奏を箏で創作できるようになっており、教科書の教材を創作学習と連携することができる。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「何が同じで何が違う？」では、音色や旋律のふき方の特徴を比較し、共通性と固有性を考え、特徴を理解することができるようにワークシートが工夫されている。</li> <li>○「話し合おう」では、協働的な活動をとおり、生徒の思考力、判断力、表現力等の促進を図る工夫がされている。</li> <li>○音楽（一般）の教科書教材と関連する教材が取り入れられ、特に、楽器を使った旋律づくりや曲の構成の学習等、創作学習との連携が図られるよう、工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力・人間性等の涵養を高めるための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「合わせて演奏しよう」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、表現を工夫できるように配慮されている。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。</li> </ul> <p>△音楽科（音楽）にはある「学びのユニット」はない。</p>
教育芸術社	<p><b>&lt;知識及び技能を習得するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各楽器の構造や各部の名称を、写真や図を用いてわかりやすく学習できるようになっている。</li> <li>○リコーダー指導では、大きな3つのステップに分けられ、各ステップに2小節程度のやさしい曲から導入するため、苦手な生徒も取り組みやすいよう、工夫されている。</li> <li>○楽器の奏法や構え方が演奏者（生徒）の目線から撮影されていて見やすい。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習目標と同時に「音楽的な見方・考え方」を働かせる際に視点となる、「音楽を形づくっている要素」が各教材に例示してある。</li> <li>○「深めよう！音楽」では、イラストの教師役と生徒役の会話からヒントが与えられ、思考力・判断力が深められるよう工夫されている。</li> <li>○長唄「勸進帳」の「寄席の合方」をボディパーカッションでも取り組めるように楽譜が工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力・人間性等の涵養を高めるための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「アンサンブルセミナー」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、表現を工夫できるように配慮されている。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。</li> <li>○目次の後に学習内容を示すページを掲載し、器楽・創作が学習指導要領の内容とともに、色分けされ、各教材の関連が視覚的に確認できるようになっている。音楽科（音楽）と統一されている。</li> </ul>